

⑥7 塩竈市清水沢地区における災害公営住宅建設工事

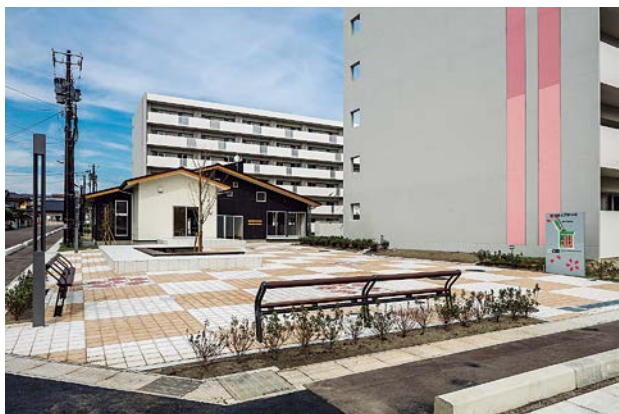
受賞機関 独立行政法人都市再生機構
宮城・福島震災復興支援本部
住宅整備部

全建賞審査委員会の評価ポイント

被災者の方々の円滑な生活再建と、コミュニティの拠点となるよう、ハード・ソフト両面を見据えて整備された災害公営住宅の整備事業。災害公営住宅の入居者や地域住民のコミュニティ形成を目的として集会所や広場等の交流の場となる空間を整備したこと、被災者の生活支援や住民間の交流を促す取組みを行ったことを評価。

1. はじめに

塩竈市の要請に基づき、独立行政法人都市再生機構(以下、URという)が整備した清水沢地区災害公営住宅では、被災者の生活再建を支援するため、塩竈市と連携してハード、ソフトの両面からコミュニティ形成を促す対策を講じた。



まち角広場側から見た集会所棟

2. 事業の概要

塩竈市清水沢地区災害公営住宅は整備戸数170戸と大規模な集合住宅であり、入居者間及び周辺住民とのコミュニティの形成が求められ、災害公営住宅の整備にあたっては、ハード、ソフトの両面において力を入れて取り組んだ。

主なハード面の取組み

- 地域特性を活かしながら入居者と周辺住民が交流するうえで魅力的な空間を形成。
- 別棟集会所をまち角広場に面して計画し、コミュニティの拠点として整備
- まち角広場を起点として地域へとつながる歩行者ネットワークを整備

- 塩竈桜をイメージした住棟アクセントカラーの採用
- エレベーターシャフト壁面に藻塩をイメージしたガラスブロックを設置

主なソフト面の取組み

- 塩竈市とURが連携し入居者と地域住民の交流を促進する様々な企画を実施。
- かまどベンチを活用した芋煮会等の入居者交流イベントを実施
- 集会所を活用した地域住民と入居者の意見交換会の実施

3. 事業の成果

コミュニティ形成のきっかけとして集会所やまち角広場を中心としたハードをうまく活用しながら、塩竈市とURが連携し、入居者の交流イベントや地域住民との意見交換会等を企画することで、入居者と地域住民の交流促進、防災意識の向上などを図ることができた。



入居者交流イベントの実施

4. おわりに

塩竈市清水沢地区においては災害公営住宅の建設とあわせてURがコミュニティ支援についても参画することができ、ソフトを見据えたハード整備とハードを活用したソフト支援を一体的に実施することにより効果的にコミュニティ形成に寄与することができた事例といえる。

賛助会員 青木あすなろ建設(株)東北支店